

# 生物多様性ちば企業ネットワークによる 里山モニタリングの成果と課題

2022年11月21日

千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター  
大島 健夫

# 企業と生物多様性

全ての企業は、直接的または間接的に生物多様性を利用し、  
企業活動を行っている。



生物多様性の急速な損失は、企業の存続にかかわる問題でもある。企業活動は、生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の保全には、企業による生物多様性への配慮が不可欠。

現在では、国内外において、多くの企業が生物多様性に関心を持ち、生物多様性の保全と持続可能な利用のため、様々な取組を模索するようになった。

しかし、このような企業活動と生物多様性の関係はいまだ認知度が低く、個々の企業にはノウハウも少ないため、実際の行動にはなかなか結びつきにくい。

# 生物多様性ちば企業ネットワーク

企業の生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組を広げるため、2013年に立ち上げ。企業の取組を千葉県と支援メンバーで支援・連携する活動を行っている。

支援メンバーとは、趣旨に賛同する地方公共団体、大学等の団体等。

個々のネットワーク参加企業が、その業態・考え方等に応じ、宣言・指針の策定や生物多様性保全に向けた取組等を進めるのに対し、県や支援メンバーは人的な支援や情報提供を行うとともに、企業メンバー間の情報共有を図っている。

現在、企業メンバーとして19社、支援メンバーとして10団体が参加中。年1回のセミナー、年2回の勉強会を開催している。

# 生物多様性ちば企業ネットワークによる里山モニタリング

## ◎概要…

千葉市内の森林において、同地を管理するNPO及び地権者の協力を得て、生物多様性ちば企業ネットワークの勉強会として里山保全活動とモニタリングを実施。

## ◎目的…

里山に人手を加えることによる変化を継続調査により把握する。これにより、里山の保全活動が生物多様性にどのような影響を及ぼすのか検証する。

そして、そこで得られた知見を、企業が所有する森林や工場内緑地の維持管理に役立てることができないか？

場所・・・千葉市若葉区谷当町



# 管理放棄され、藪化した森林



2017年11月24日、10m×10mの調査区（コドラート）を3箇所（平坦地、南向き斜面、北向き斜面）に設置。

調査区内の高さ1.3m以上の木本は、種名、位置、高さ、胸高直径を記録。

また、草本及び高さ1.3m未満の木本は、種ごとに調査区内での被度（水平投影面積、%）と最大高を記録。



以降、毎年春と秋に、ちば企業ネットワークの勉強会として、植生のモニタリングを継続してきた。

上記調査後に低木層以下の樹木を伐採。アズマネザサを刈り取り。

# 実際のコドラート



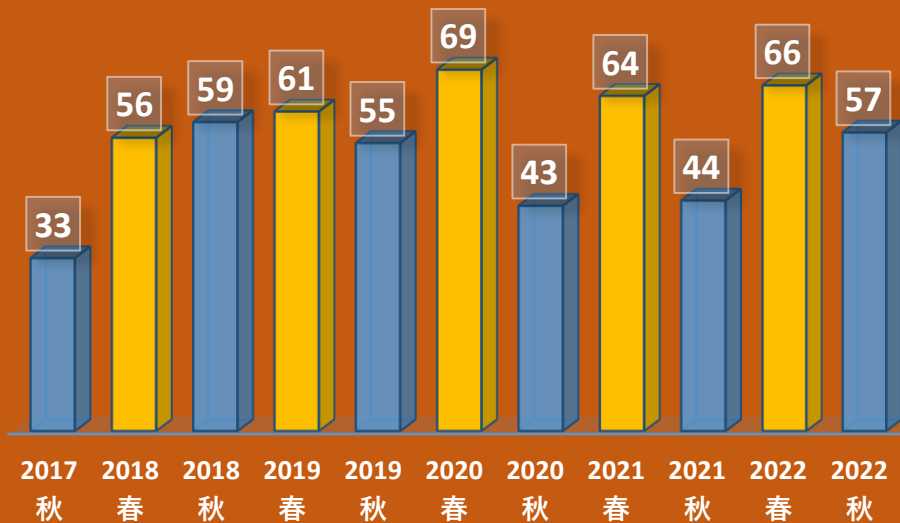


調査風景（植物の種類と高さを測り、記録する）

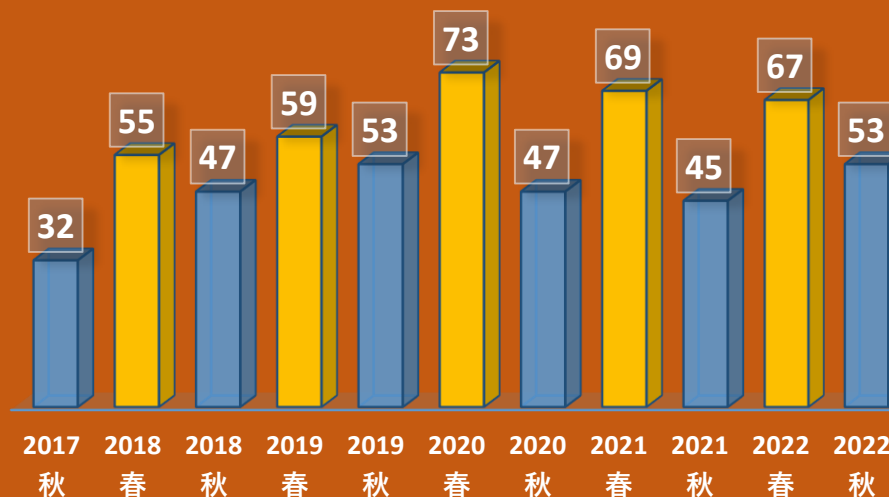


# 植生はどのように変化したのか…①種数

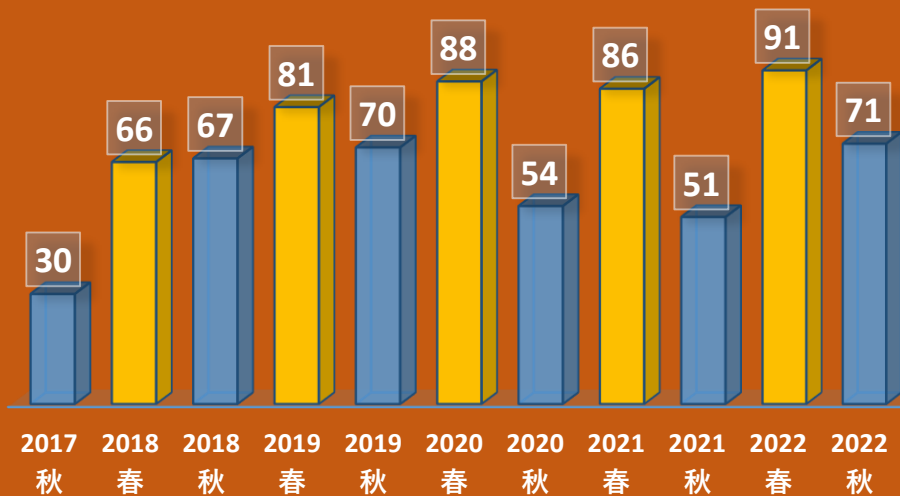
## 平坦地 (A)



## 南向き斜面 (B)



## 北向き斜面 (C)



全てのコドラートにおいて、刈り取り後に爆発的に種数が増加する傾向が見られた。

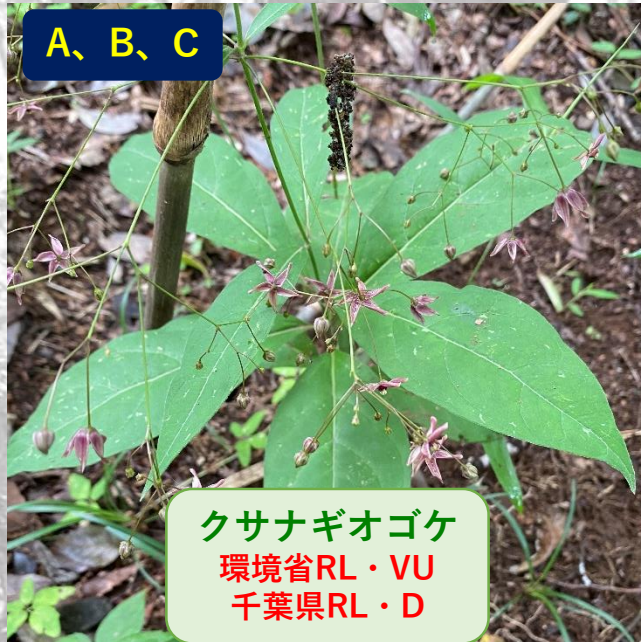
種数は3年目までは増加を続け、その後、安定傾向にある。







# 植生はどのように変化したのか…③希少種の出現



# コドラートを利用する動物たち



シュレーゲルアオガエル  
千葉県RL・D



ニホンアカガエル  
千葉県RL・A



ニホンアナグマ  
千葉県RL・C



ニホンカナヘビ  
千葉県RL・D

## 生物多様性ちば企業ネットワークによる里山モニタリングの成果

荒れている里山に適切に人の手を入れ、管理を行うことにより、生物多様性が増し、その地域にもともと生息していた希少種も復活する可能性があることが示された。

◎定期的なモニタリングという手法は、そのことを可視化する上で有効。特に、手を入れ始めてすぐの段階では変化が大きいため、対内的・対外的にアピールしやすい。

支援メンバーであった大学の研究室の学生が、卒業後に里山活動を行う法人に就職、企業メンバーとして参加するなど、生物多様性にかかわる理念とノウハウの継承、再生産の舞台ともなった。

◎このような活動は、地権者や地元の方々、日常的にフィールドに入っている方々の協力が不可欠であり、地域に根ざした新たな関係性を創出できる機会となる。



## 参加企業が少なかった。

モニタリングという手法の性質上、現場での作業は地味なものになりがちで、また「ただちに知識と手法を持ち帰って実際の活動に生かせる」ことは難しく、また、継続的に参加しないと変化を体感することができないことも敷居を高くしていた。

一方、毎年開催している「企業と生物多様性セミナー」への関心は高く、オンラインで開催された昨年度は58団体の参加を数えた。

今後は、企業の生物多様性保全への関心を、「どのように実際の活動と具体的に結びつけるイメージを持って頂くか」をより一層意識してネットワークの活動を企画してゆきたい。

A scenic landscape featuring mountains and a dense forest. The scene is overlaid with a dark blue horizontal banner containing white Japanese text. The background shows a valley with a forest of green trees, and mountains in the distance under a sky with scattered white clouds.

ご清聴ありがとうございました。